

軽井沢町 公民館利用予測調査報告書

2025年1月20日

株式会社Dialogic Consulting

本報告書の概要

本報告書は、軽井沢町における新たな公民館整備に向けた基礎調査として、現状分析とニーズ予測を行い、基本計画策定に必要な具体的な諸元を導き出すことを目的とする。具体的には、既存の公民館施設の利用状況や課題を把握したうえで、実態に即した今後の利用予測を立てた。さらに、ポテンシャルユーザーの仮説を立て、追加施設・設備の予測を立てた。

本調査は現状の利用者と住民ニーズを把握したことに止まるため、今後は人口動態予測、生活様式の変化予測、地域特性、まちづくりビジョンを考慮した公民館の整備条件の検討が必要である。

なお、「基本計画」では、施設規模（延床面積）、必要諸室、設備仕様等の基本的な施設要件を3月末までに明確化することとなっている。

調査目標

- 必要な基礎情報の収集
 - 基本計画に含まれる、施設規模（延床面積）、必要諸室・設備・仕様の検討に必要な情報が集まっている
- 現状把握と将来予測
 - 利用状況が把握され、今後の利用予測が立っている
- 潜在需要の分析
 - ポテンシャルユーザーが特定され、追加設備施設の予測が立っている
- 広範な検討要素の整理
 - 人口動態予測、生活様式の変化予測、地域特性、まちづくりビジョンを含めて将来の公民館を検討するための、基礎調査が完了している

本書の目次

1. 調査内容
2. 公民館・老人福祉センターの利用状況
 - ・ データを元に現在の利用状況を集計しました
3. 今後の利用予測
 - ・ データを元に将来の利用予測を立てました
4. 施設設備の拡充の検討
 - ・ アンケート結果を元に、ポテンシャルユーザーの想定を立てました
5. 施設設備の拡充の想定
 - ・ ポテンシャルユーザーのニーズ分析を行い、施設拡充を想定しました
6. 今後の課題
7. 対話型リサーチ報告
8. 参考資料

本調査サマリー

現状は、**最適規模に対しオーバースケール**である

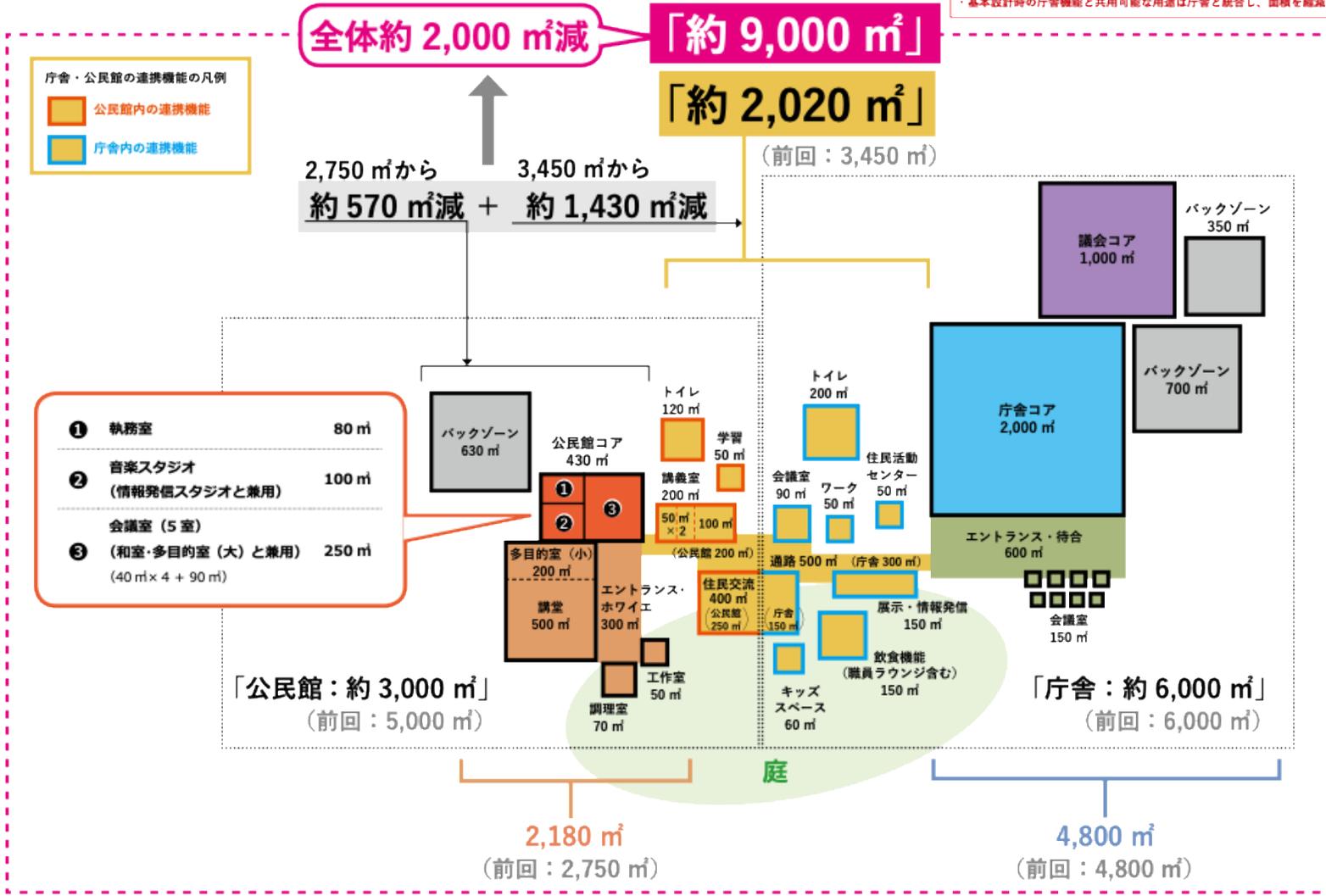
- 現状の利用率は31%と低く、今後10年間の利用率が増加する可能性は低い
- 長期的には、新規ユーザーが開拓されない限り、利用率が低下することが見込まれる
- 一方で、社会教育施設という特殊性を考慮しなければならない

施設規模の検討 2

第11回推進委員会で示した「施設規模の検討1」をベースに公民館機能拡充施設に必要な機能の再精査と庁舎と連携・共用可能な機能を整理しました。その結果、**全体面積は約9,000㎡**となり、見直し方針当初の約11,000㎡から約2,000㎡の縮減が可能であると考えます。
(以後、公民館機能拡充施設を「公民館」と記載します)

【公民館機能の基本方針からの変更点】

- ・和室(4室)と多目的室(大)は会議室と兼用
(和室利用の場合は、移動量などの移動什器での対応を想定)
(多目的室は移動間仕切りを全てオープンにする)
- ・情報発信(スタジオ)は音楽スタジオ機能と兼用
- ・各室の規模を精査
- ・基本設計時の庁舎機能と共用可能な用途は庁舎と統合し、面積を縮減



庁舎・公民館の連携機能の凡例

- 公民館内の連携機能
- 庁舎内の連携機能

- ① 執務室 80㎡
- ② 音楽スタジオ (情報発信スタジオと兼用) 100㎡
- ③ 会議室(5室) (和室・多目的室(大)と兼用) 250㎡ (40㎡×4 + 90㎡)

現状の施設規模

	貸出可能スペース	総平米数	
中央公民館	1,340m ²	2,439m ²	
老人福祉センター	417m ²	1,452m ²	温泉施設含む
合計	1757m ²	3891m²	

- 検討中の規模3000m²に対し、現有規模は3891m²である
- 新公民館は、老人福祉センター機能を組み込む予定である
- 温泉施設は廃止予定である

1, 調査内容

以下の調査を実施しました

- 公民館、老人福祉センター稼働状況調査
- 公民館、老人福祉センター団体登録状況調査
- 公民館登録団体アンケート（紙面）：74団体
- 老人福祉センター登録団体アンケート（紙面）：15団体
- 住民アンケート（Web）：199回答
- 中高生アンケート（Web）：111回答
- 対話型リサーチ：12月22日（日） 14名参加

2, 公民館・老人福祉センターの 利用状況

公民館の利用状況：2019-23年度

年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
年間稼働率	27.64%	16.14%	28.68%	26.49%	31.05%
月最大稼働率	45.04%(7月)	24.57%(11月)	50.10%(6月)	39.39%(11月)	44.50%(11月)
月最小稼働率	15.29%(3月)	4.96%(5月)	9.3%(1月)	20.16%(5月)	19.43%(5月)
100%稼働日数	7日	0日	1日	3日	14日

- 上記データには、役場利用（会議など）も含まれる。
- 2020年度3月より稼働率が急激に低下した。コロナ禍の影響があったと考えられる。
- 2022年度6-8月にかけて玄関、展示ホール、大講堂の稼働率が高かったがワクチン接種のために使われたと考えられる。
- コロナ禍の影響を考慮すると、2021年度から2023年度は外れ値としてみなすことができる
- 2019年度に比べ、2024年度の稼働が高くなっているが、要因が不明のため単純に増加傾向とみなすことはできない
- 100%稼働は、日曜、8月第1週（夏期大学）、11月第1週（文化祭）に偏っている

老人福祉センターの利用状況:2023年度

年度	大広間	娯楽室	工作室	図書室	合計
年間稼働率	40.67%	14.68%	6.12%	14.53%	19.00%

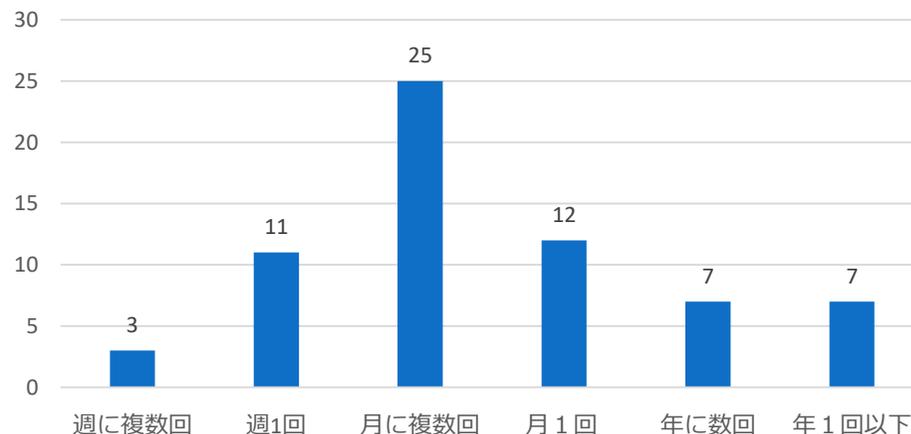
	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
稼働率	22.83%	15.69%	35.11%	16.58%	16.76%	25.80%	0.00%

- 老人福祉センターの営業は日中のみである
- 老人福祉センターのデータは、2023年度のみである
- 上記データには、役場の利用（会議など）は含まれない
- 日曜は休館日である
- 稼働率の押し上げ要因は、大広間の月、水、木（78.06%）と娯楽室・図書室の土（44.15%）となっている

登録団体状況

年度	登録団体数	登録会員数
令和2年	84	1,401
令和4年	94	1,806
令和6年	87	1,735

利用頻度



- 登録団体数、会員数とも概ね安定している
- 70%(45/65団体)の団体が、平均年齢65歳以上である
- 団体の平均活動年数は22年以上である（65歳以上の平均値24年以上）
- 月1回以上利用する団体の平均年齢は66.89歳である
- 月1回以上利用する団体のうち、平均年齢50歳以下は、音楽、手話、焼き物の計4団体である
- 子ども対象は3団体である

3, 今後の利用予測

2035年までの利用予測

**現状は最適規模に対しオーバースケールであり、
今後10年間の利用率が増加する可能性は低い**

現有規模2,439㎡は十分余力がある

- 会議室の適切な稼働率は66%程度とされており、現在の稼働率は役場利用を含み31%である
- 老人福祉センターの需要も現公民館規模で吸収できる
- 100%以上の稼働日は、部屋のスペックを調整することで吸収できる
- 役場会議室と相互利用ができるようになると規模を縮小できる可能性がある
 - 週末需要を吸収し、平日未稼働スペースを役場会議室に提供できる

今後10年程度の利用率は増加しない

1. 利用団体の安定性

- 登録団体の平均活動年数は長期的に定着している（新規団体は少ない）
- 令和2年から令和6年の登録団体数は大きな変動がない
- 会員数もと一定水準を維持している

2. 高齢者人口動向

- 向こう10年程度は利用者の母数となる高齢者人口は維持される

2035年以降の利用予測

**新規ユーザーが開拓されない限り、
2035年以降の利用率は低下する可能性が高い**

- 現在の主要利用者層の高齢化による活動停止、縮小リスクが見込まれる
- ニーズの多様化により、団塊世代の後継となる団塊ジュニア世代が高齢化しても利用にいたらない可能性がある
- 人口減少により利用率は減少すると考えられる（全国的な予測のため、軽井沢町の人口動向は考慮せず）

データ収集の課題

- 今後も、継続してデータの収集と分析を行い、精度の高い将来予測を立て、必要な施設設備の検討が必要である
- 今回の利用状況調査では、必要とされるデータが不足し、集計に時間がかかったため、今後は精度の高いデータ収集方法と集計方法の確立が必要だと考える

4, 施設設備の拡充の検討

新規ユーザー開拓に向けての検討項目

新規ユーザーが開拓されない限り、
2035年以降の利用率は低下する可能性が高い



3つの検討項目

1. ポテンシャルユーザーを誰と仮定するか？
2. ポテンシャルユーザーをどのように開拓するか？
3. それによって、ポテンシャルユーザーはどの程度利用するか？

ポテンシャルユーザーの仮定方針

社会教育施設の利用と相関があるとされるコミュニティ意識尺度を用い、ポテンシャルユーザーを仮定した

1. コミュニティ意識尺度の因子分析をおこない、下記3因子を特定した
 - 軽井沢力（地域市民行動）因子、軽井沢愛（地域アイデンティ）因子、地域コミットメント因子
2. コミュニティ意識尺度3因子と利用頻度の相関分析を行い、統計的に有意に利用頻度と地域市民行動に関連性が認められた（利用頻度の高い方は地域市民行動が高いと想定できる）
3. 利用頻度は低いが組織市民行動の高い方をポテンシャルユーザーと仮定した

ポテンシャルユーザーとは

利用頻度が半年に1回以下、かつ軽井沢力因子が4ポイント以上をポテンシャルユーザーと仮定した。

67件

デモグラフィック

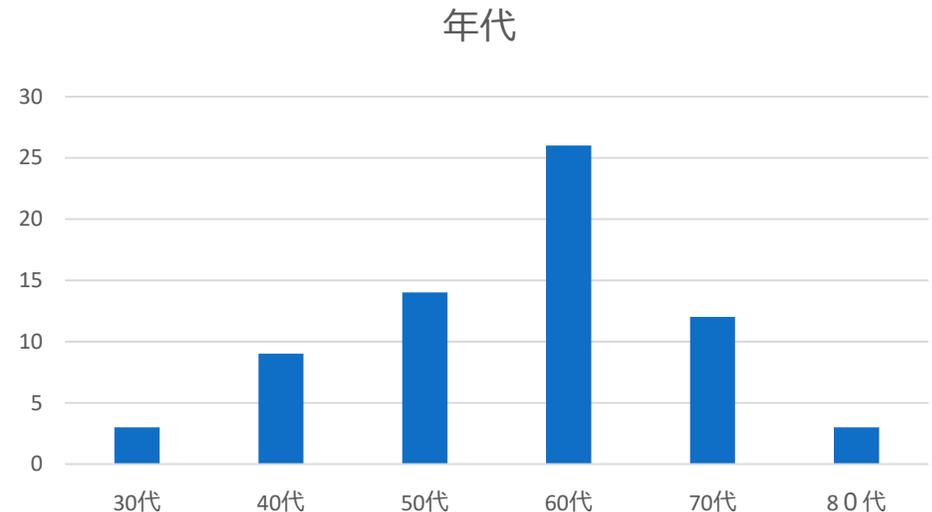
平均 56.6代 (50~60代)

女性 36 ・ 男性 30

最大値 80代

最小値 30代

標準偏差 1.32



* ポテンシャルユーザーも高齡化が目立つ
(軽井沢町平均年齢50.3歳)

中高生アンケート結果 111回答

- 中高生は利用頻度が低く（全くとほとんど利用したことがないが90件）が、コミュニティ意識が高いほど利用してくれるとする仮説が成り立たなかった。
- サンプル数は少ないものの、地域アイデンティティが高い生徒と利用頻度の相関は統計的に優位とされた。中高生向けに公民館で軽井沢愛（地域アイデンティティ）を高める企画を行うことで利用頻度を高められる可能性がある
- また利用目的は、施設設備よりは友人との関係性など、別の要因が考えられる

新規ユーザー開拓に向けての検討項目

新規ユーザーが開拓されない限り、
2035年以降の利用率は低下する可能性が高い



3つの検討項目

1. ポテンシャルユーザーを誰と仮定するか？
2. ポテンシャルユーザーをどのように開拓するか？
3. それによって、ポテンシャルユーザーはどの程度利用するか？

ポテンシャルユーザーの開拓方法

- 住民向けに軽井沢力（地域市民行動）を高める施策が有効である
- 中高生向けに公民館で軽井沢愛（地域アイデンティティ）を高める施策が有効である

- 先行研究では、「施設・設備の拡充：気軽に立ち寄れる雰囲気」、「情報発信の強化」、「プログラム・コンテンツの充実」が利用頻度を上げる可能性があるとして
いる
- 具体的な施策は、別途検討が必要である
- 新規ユーザーを開拓するならば、特に関心が低いとされ、長期ユーザーに成り得る中高生、若者、子育て世代の施策検討が必須である。しかし、そもそもこの世代にはニーズが少ない可能性もある

施策項目例

施設・設備の拡充：気軽に立ち寄れる雰囲気
情報発信の強化
プログラム・コンテンツの充実
利用環境の最適化
コミュニティ連携
登録団体の拡充

(参考) 「生涯学習施策に関する調査研究」

公民館の認知度や使用頻度に応じた、住民の要望は以下のとおりです。

- ☑ 「公民館の役割や活動内容を知らずに、利用していない住民」は、公民館に対して、特に、気軽に立ち寄れる雰囲気を探求していることがわかりました。
- ☑ 「公民館の役割や活動内容を知っているにもかかわらず、利用していない住民」は、公民館に対して、気軽に立ち寄れる雰囲気、アクセスの良さ、情報提供の充実を探求していることがわかりました。
- ☑ 「公民館を年に1回程度利用している住民」は、公民館に対して、気軽に立ち寄れる雰囲気、多様な学習機会の提供を探求していることがわかりました。
- ☑ 「公民館を年数回以上利用している住民」は、気軽に立ち寄れる雰囲気、多様な学習機会の提供、蔵書数の増加、閉館時間の延長、施設の拡大、情報提供の充実等、様々なことを探求していることがわかりました。



平成22年度(2011)「生涯学習施策に関する調査研究」: 文部科学省, 三菱総合研究所

新規ユーザー開拓に向けての検討項目

新規ユーザーが開拓されない限り、
2035年以降の利用率は低下する可能性が高い



3つの検討項目

1. ポテンシャルユーザーを誰と仮定するか？
2. ポテンシャルユーザーをどのように開拓するか？
3. それによって、ポテンシャルユーザーはどの程度利用するか？

ポテンシャルユーザーの利用想定

- 本調査からは具体的な数値を導き出すことはできないため、人口動態予測、生活様式の変化予測、地域特性、まちづくりビジョンを含めた将来の想定を立てることが必要である

5, 施設設備の拡充の想定

ポテンシャルユーザーのニーズ

新公民館に期待する役割

気軽に立ち寄れる コミュニティ機能	65.7%
生涯学習の推進	65.7%
地域文化の振興	64.2%
子どもや子育て支援	56.7%
運動など健康促進	49.3%
地域振興への貢献	47.8%
地域コミュニティの維持	47.8%
レクリエーション	37.3%
飲食などのサービス	37.3%
物販	14.9%
どのような役割も 期待していない	1.5%
その他	0.0%

新公民館に期待する施設

交流、休憩スペース	59.7%
カフェや飲食店	53.7%
学習スペース	38.8%
コワーキングスペース	38.8%
現在と同じ施設	26.9%
運動施設（ジムなど）	26.9%
図書スペース	25.4%
物販店（お買い物）	16.4%
その他（自由記述）	0.0%
どのような施設も 期待していない	0.0%
交流、休憩スペース	59.7%
カフェや飲食店	53.7%

N=67

既存ユーザーのニーズ（1ヶ月に1回程度以上）

新公民館に期待する役割

生涯学習の推進	83.3%
地域文化の振興	79.2%
気軽に立ち寄れる コミュニティ機能	66.7%
子どもや子育て支援	62.5%
地域振興への貢献	62.5%
地域コミュニティの維持	62.5%
レクリエーション	54.2%
運動など健康促進	54.2%
飲食などのサービス	35.4%
物販	12.5%
その他	0.0%
どのような役割も 期待していない	0.0%

新公民館に期待する施設

交流、休憩スペース	70.8%
カフェや飲食店	60.4%
現在と同じ施設	43.8%
学習スペース	43.8%
運動施設（ジムなど）	41.7%
図書スペース	33.3%
コワーキングスペース	33.3%
物販店（お買い物）	18.8%
その他（自由記述）	0.0%
どのような施設も 期待していない	0.0%

N=48

中高生のニーズ（全員）

新公民館に期待する役割

飲食などのサービス	35.1%
気軽に立ち寄れる コミュニティ機能	32.4%
子どもや子育て支援	30.6%
地域文化の振興	27.0%
地域コミュニティの維持	24.3%
レクリエーション	22.5%
運動など健康促進	22.5%
生涯学習の推進	20.7%
物販	17.1%
地域振興への貢献	16.2%
その他	0.0%
どのような役割も 期待していない	0.0%

新公民館に期待する施設

カフェや飲食店	40.5%
学習スペース	30.6%
交流、休憩スペース	28.8%
図書スペース	27.0%
物販店（お買い物）	22.5%
運動施設（ジムなど）	18.9%
どのような施設も 期待していない	18.9%
現在と同じ施設	18.0%
コワーキングスペース	6.3%
その他（自由記述）	0.0%

N=111

6, 今後の課題

今後の課題

- **基本計画作成時にデータの詳細分析を行う**
 - 山下三浦JV様には取得データと本報告書をお渡しする
- **ポテンシャルユーザーの開拓方法について検討する**
 - 住民向けに軽井沢力（地域市民行動）を高める施策、中高生向けに公民館で軽井沢愛（地域アイデンティティ）を高める施策を検討する
 - 気軽に立ち寄れる雰囲気を作る施設・設備の構築を検討する
 - 特に関心が低いとされ、長期ユーザーに成り得る中高生、若者、子育て世代の開拓方法を検討する
- **軽井沢町の人口動態予測、生活様式の変化予測、地域特性、まちづくりビジョンを含めた将来の想定を立てる**
 - 今回は、住民アンケート、利用者アンケートが中心だったため、広範囲な情報収集と検討をしていない

7, 対話型リサーチ報告

おしゃべり会 12月22日実施

関心の低い層、また関心は高いが不満のある層に対し、WSを実施することに効果があると言える

参加者

- ・ 町民 2名
 - ・ 役場職員 8名
 - ・ JV職員 3名
 - ・ 運営 1名
 - ・ ファシリテーター 1名
- 町民の参加が少なかったため、役場職員、JV職員、運営の12名もワークショップに参加いたしました
 - 参加者数が少なかった仮説立てと検証が必要だと考えます

事前事後アンケートの分析によると、以下の点についてWS実施の意義が見られました。

Q5 建て替えプロジェクトの進め方に納得している

→ WSはプロジェクトの賛同が得られる

Q6 建て替えに関する情報提供は十分だと感じる

→ WSは情報提供の有効な方法だと考えられる

Q8 新公民館は自分の生活に役立つと思う

→ WSは新施設の有用性を高められる

また、「Q1 現在の公民館の施設・サービスに満足している」を高めにつけている方は、Q2以降の変化が少ないため、満足していない方にWSの効果は高いと言えます。

8, 参考資料

コミュニティ意識尺度 設問

地域市民行動因子

Q12:地域でのボランティアなどの社会的活動に参加したい。

Q13:住み良い地域づくりのために自分から積極的に活動していきたい。

Q14:地域のみennaと何かをすることで、自分の生活の豊かさを求めたい。

地域アイデンティティ因子

Q18:いま住んでいる地域に、誇りとか愛着のようなものを感じている。

Q19:この土地にたまたま生活しているが、さして関心や愛着といったものはない。

Q20:人からこの地域の悪口をいわれたら、自分の悪口をいわれたような気になる。

地域コミットメント因子(逆転項目)

Q21自分の住んでいる地域で住民運動が起きても、できればそれぞれにかかわりたくない。

Q22:地域をよくするための活動は、熱心な人たちに任せておけばよい。

Q23:地域での環境整備は、行政に任せておけばよい

低因子負荷量(因子項目とせず)

Q15:地域での問題の解決には、地域住民と行政が対等な関係を築くことが重要である。

Q16:地域をよくするためには、住民がすることに行政の側が積極的に協力すべきだ。

Q17:地域をよくするためには、住民みずからが決定することが重要である。

「地域市民行動」が公民館の利用頻度に影響している

		相関			地域市民行動	地域アイデンティティ	地域コミットメント
		4 中央公民館の利用頻度を教えてください。	7 中央公民館の建替えについてどの程度知っていますか	8 中央公民館の建替えについてどの関心がありますか			
4 中央公民館の利用頻度を教えてください。	Pearson の相関係数	1	.281**	.310**	.341**	.067	.214**
	有意確率 (両側)		<.001	<.001	<.001	.348	.002
	度数	199	199	199	199	199	199
7 中央公民館の建替えについてどの程度知っていますか	Pearson の相関係数	.281**	1	.237**	.239**	.040	.206**
	有意確率 (両側)	<.001		<.001	<.001	.576	.003
	度数	199	199	199	199	199	199
8 中央公民館の建替えについてどの関心がありますか	Pearson の相関係数	.310**	.237**	1	.168*	.129	.216**
	有意確率 (両側)	<.001	<.001		.018	.069	.002
	度数	199	199	199	199	199	199
地域市民行動	Pearson の相関係数	.341**	.239**	.168*	1	.363**	.420**
	有意確率 (両側)	<.001	<.001	.018		<.001	<.001
	度数	199	199	199	199	199	199
地域アイデンティティ	Pearson の相関係数	.067	.040	.129	.363**	1	.262**
	有意確率 (両側)	.348	.576	.069	<.001		<.001
	度数	199	199	199	199	199	199
地域コミットメント	Pearson の相関係数	.214**	.206**	.216**	.420**	.262**	1
	有意確率 (両側)	.002	.003	.002	<.001	<.001	
	度数	199	199	199	199	199	199

** . 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

* . 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

統計的に有意に利用頻度と地域市民行動に関連性が認められた

(χ^2 検定で $p = 0.03$)

カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	89.282 ^a	66	.030
尤度比	97.429	66	.007
線型と線型による連関	23.017	1	<.001
有効なケースの数	199		

a. 75 セル (89.3%) は期待度数が 5 未満です。最小期待度数は .12 です。

対称性による類似度

		値	漸近標準誤差 ^a	近似 t 値 ^b	近似有意確率
名義と名義	ファイ	.670			.030
	Cramer の V	.273			.030
	分割係数	.557			.030
間隔と間隔	Pearson の R	.341	.061	5.090	<.001 ^c
順序と順序	Spearman の相関	.345	.067	5.161	<.001 ^c
有効なケースの数		199			

a. 帰無仮説を仮定しません。

b. 帰無仮説を仮定して漸近標準誤差を使用します。

c. 正規近似に基づく

対話型リサーチ 事前事後アンケート結果の分析：記述統計量

	N数	ワークショップ前				ワークショップ後			
		最小値	最大値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1 現在の公民館の施設・サービスに満足している	11	3	6	4.27	0.91	2	7	4.45	1.44
Q2 新公民館建て替えの必要性について理解できる	11	5	7	6.09	0.54	5	7	6.18	0.60
Q3 新公民館の計画案に満足している	11	2	6	5.00	1.27	4	7	5.55	0.93
Q4 新公民館は住民のニーズに応えるものになると思う	11	4	7	5.82	0.98	4	7	6.00	1.00
Q5 建て替えプロジェクトの進め方に納得している	11	4	7	5.36	1.03	5	7	6.18	0.60
Q6 建て替えに関する情報提供は十分だと感じる	11	2	7	5.18	1.66	2	7	5.82	1.60
Q7 新公民館ができたなら利用したいと思う	11	5	7	6.09	0.54	4	7	6.45	0.93
Q8 新公民館は自分の生活に役立つと思う	11	5	7	5.91	0.54	5	7	6.27	0.65
Q9 新公民館の基本計画づくりに関わりたいと思う	11	4	7	5.91	0.83	4	7	6.09	0.94
Q10 住民の意見が基本計画に反映されると思う	11	3	7	5.91	1.14	5	7	6.18	0.75
平均スコア	11	4.6	6.6	5.55	0.51	5	6.8	5.92	0.52

対話型リサーチ 事前事後アンケート結果の分析：対応のあるt検定

	対応サンプルの差					t 値	自由度	有意確率	
	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	差の 95% 信頼区間				片側 p 値	両側 p 値
				下限	上限				
Q1 現在の公民館の施設・サービスに満足している	0.18	1.47	0.44	-0.81	1.17	0.41	10	0.345	0.690
Q2 新公民館建て替えの必要性について理解できる	0.09	0.54	0.16	-0.27	0.45	0.56	10	0.294	0.588
Q3 新公民館の計画案に満足している	0.55	1.37	0.41	-0.37	1.47	1.32	10	0.108	0.216
Q4 新公民館は住民のニーズに応えるものになると思う	0.18	0.87	0.26	-0.41	0.77	0.69	10	0.253	0.506
Q5 建て替えプロジェクトの進め方に納得している	0.82	0.87	0.26	0.23	1.41	3.11	10	0.006	0.011
Q6 建て替えに関する情報提供は十分だと感じる	0.64	0.67	0.20	0.18	1.09	3.13	10	0.005	0.011
Q7 新公民館ができたなら利用したいと思う	0.36	1.03	0.31	-0.33	1.05	1.17	10	0.134	0.267
Q8 新公民館は自分の生活に役立つと思う	0.36	0.51	0.15	0.03	0.70	2.39	10	0.019	0.038
Q9 新公民館の基本計画づくりに関わりたいと思う	0.18	0.60	0.18	-0.22	0.59	1.00	10	0.170	0.341
Q10 住民の意見が基本計画に反映されると思う	0.27	1.19	0.36	-0.53	1.07	0.76	10	0.233	0.465
平均スコア	0.36	0.37	0.11	0.12	0.61	3.26	10	0.004	0.009

参考文献・論文

1. 平成22年度(2011)「生涯学習施策に関する調査研究」:文部科学省, 三菱総合研究所
 - https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afldfile/2011/05/23/1306239_003.pdf
2. 社会教育調査 平成27年度 統計表 公民館調査:文部科学省
 - <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400004&tstat=000001017254&cycle=0&tclass1=000001098916&tclass2=000001098918&tclass3=000001098921&tclass4val=0>
3. 石盛真徳, 岡本卓也, & 加藤潤三. (2013). コミュニティ意識尺度 (短縮版) の開発. *実験社会心理学研究*, 53(1), 22-29.
4. 石盛真徳. (2004). コミュニティ意識とまちづくりへの市民参加: コミュニティ意識尺度の開発を通じて. *コミュニティ心理学研究*, 7(2), 87-98.
5. 櫻井常矢 (2019). 社会教育施設と地域コミュニティとの関係構造